

(別記)

## 2019 年度南関町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、良質米地帯として水稻を中心とした複合経営体であり、多種にわたり大豆、野菜等が作付けされている。しかし、不整形で小規模な農地がほとんどのため、機械の導入も進まず、集積・団地化等の促進に遅れをとっている。

また、山間地・高齢化・農家の減少等が理由と考えられる自己保全管理等の不作付水田が増加の傾向にある。

そのほか、転作作物については、排水不良等の圃場条件により単収の低下を招いており、改善が必要になっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

地域内の約 765ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持拡大を図る。

また、圃場条件の悪い水田は、基盤整備等を可能な限り進め農地の利用集積を推進することにより、経営規模を拡大し農業経営の安定を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

畜産農家とのマッチングを図りながら、飼料用米の作付面積を現行 1.3ha から R2 には 5.0ha への拡大を目指す。

##### イ WCS 用稲

畜産農家とのマッチングを図りながら、WCS 用稲の作付面積を現行 13.0ha から R2 には 20.0ha への拡大を目指す。

また、水田を最大限活用し生産性を高めるため、産地交付金を活用して、耕畜連携を推進する。

##### ウ 新市場開拓用米

新市場開拓用米については、従来の主食用品種の用途で生じる価格差を解消することが難しいため、多収性で中外食用として取組が始まっている「やまだわら」を活用し取組を行う。10a 当たりの収穫の増加と低コスト化に取り組み、主食用米との価格差を縮め、今後の需要拡大が見込まれる本取組を進めていく。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、湿害を回避するための排水対策の実施と品質向上及び収量性を高めるため、可能な地区においての、集積と団地化を促す。

飼料作物については、畜産農家の大半が水稻、野菜等の耕種部門との複合経営であり、畜産農家では、水田を利用し、年間を通して、青刈りソルゴーやイタリアンライグラスなどの飼料作物を栽培している。今後も通年栽培を行うことで生産性の高い畜産経営に努め、経営コストの削減と併せて、飼料作物の作付面積拡大を図る。

また、水田を最大限活用し生産性を高めるため、産地交付金を活用して、二毛作の推進や耕畜連携を推進する。

### (4) 高収益作物（園芸作物等）

産地交付金における園芸作物（野菜等）への支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図る。

また、特に振興を図っている「なす」「さといも」「万次郎かぼちゃ」を特別振興作物として、作付拡大を推進する（「なす」 H30:4.2ha→R2:6.0ha、「さといも」 H30:4.8ha→R2:7.0ha、「万次郎かぼちゃ」 H30:6.7ha→R2:9.0ha）。

## 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	415ha, 2,079t	415ha, 2,096t	415ha, 2,096t
飼料用米	1.2	3.0	5.0
新市場開拓用米	0	1.0	3.0
WCS用稲	15.0	18.5	20.0
麦	0	0	0
大豆	9.3	9.3	9.3
飼料作物	9.8	9.8	9.8
その他地域振興作物	75.0	80.0	80.0
・なす	5.0	6.0	6.0
・里芋	6.5	7.0	7.0
・万次郎かぼちゃ	7.5	9.0	9.0
・その他野菜	30.0	31.0	31.0

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は 505kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	なす 里芋 万次郎かぼちゃ	特別振興作物助成 （基幹）	作付面積（ha）	15.6	22.0
2	飼料作物	飼料作物二毛作 助成 （二毛作）	作付面積（ha）	10.7	(18.0) 14.0
			二毛作の実施率（%）	102.4	(104.1) 103.2
3	飼料作物、WCS用稲	資源循環の取組 （耕畜連携・基幹・ 二毛作）	作付面積（ha）	6.0	(4.0) 8.0
			耕畜連携の実施率（%）	27	(17.4) 35
4	基幹作物の野菜 その他作物	野菜作付助成 （基幹）	作付面積（ha）	31.4	(31.0) 33.0
5	新市場開拓用米 （輸出用米含む）	新市場開拓用米（輸 出用米含む）におけ る多収性品種の取組	取組面積（ha）	0.0	(3.0) 2.0

※必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）